FUJILLOY
冨士ダイス株式会社

東証プライム（6167）

超硬耐摩耗工具・金型のトップシェア
冨士ダイスの事業と成長戦略

2026年10月

人と素材と技術の力で「感動体験」を。

本日覚えていただきたい３つのポイント

1. 世界の基幹産業を支えるニッチトップな存在
2. タングステン問題を成長機会へ転換
3. 成長市場への展開と株主還元策

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

01

世界の基幹産業を支える
ニッチトップな存在

FUJILLOY © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

会社概要（2026年10月現在）

商号	冨士ダイス株式会社
所在地	東京都大田区下丸子二丁目17番10号
資本金	164百万円
代表者	代表取締役会長　春田　善和 代表取締役社長　津田　雅宣
創業	1949年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：6167 [業種：機械] ） 2015年６月東証二部に上場、2017年４月東証一部に市場変更
事業目的	超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売
連結子会社	新和ダイス株式会社 冨士シャフト株式会社 FUJILLOY (THAILAND) CO., LTD. 冨士模具貿易（上海）有限公司 PT. FUJILLOY INDONESIA FUJILLOY INDIA PRIVATE LIMITED FUJILLOY MALAYSIA SDN. BHD.
従業員数	1,078名（2026年3月期末時点、連結）

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

代表取締役２名体制により、経営基盤を強化

- **2026年6月24日より、経営体制の一層の強化・充実を図るため、代表取締役2名体制へ　移行**

会長の春田は経営戦略の策定および対外交渉・監督を担い、社長の津田は執行責任者として年度計画・事業戦略の策定と実行を担当

それぞれの役割と責任を明確にしつつ、両名が一体となって経営を推進することで経営判断の質とスピードを高める

写真左：代表取締役会長　春田 善和
写真右：代表取締役社長　津田 雅宣

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

当社の特長

超硬耐摩耗工具市場でトップシェア

国内超硬耐摩耗工具業界では当社は長期に亘り、トップシェアを堅持

多品種少量の高付加価値製品の販売が主で、販売価格は安定して推移

業界シェア
30%以上

長期的成長を担う高い素材開発力×加工技術力

粉末冶金技術を活かし、市場ニーズに応える新材料の開発力

新鋭設備研究と加工方法の最適化による匠の技と最新テクノロジーの融合

コア技術
・粉末冶金技術
・超精密加工技術

開発力-技術力-営業力が競争力の源泉

お客さまの個別ニーズをカスタマイズできる直販体制

幅広い業種との安定かつ多くのお客さまとの取引実績

設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査までの一貫生産体制

取引社数
約3,000社
（グループ連結）

財務基盤：黒字経営を継続し、高い自己資本比率を維持

ネットキャッシュ	7,107百万円
フリーキャッシュフロー	436百万円

（2026年3月末・百万円未満 切り捨て）

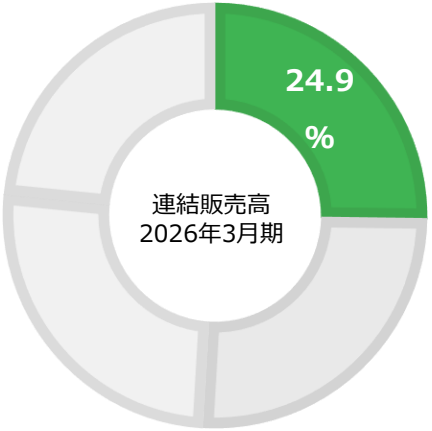
自己資本比率
78.4%
(2026年6月末時点)

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

事業内容　製品区分

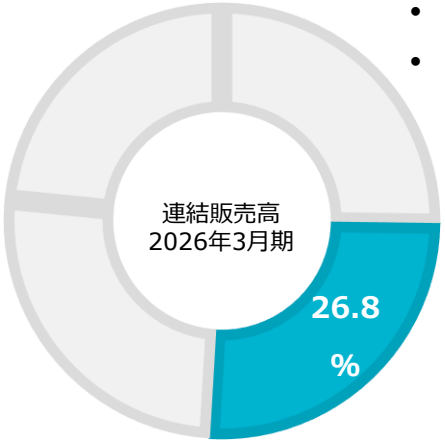
■ 超硬合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造に特化

超硬製工具類



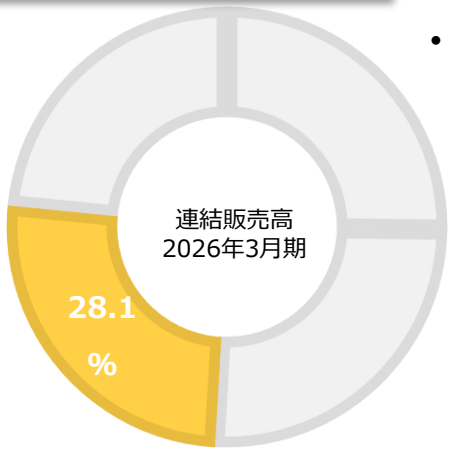
- ダイス、プラグ
- 溝付きプラグ
- 熱間圧延ロール
- 超高圧発生用工具　等

超硬製金型類



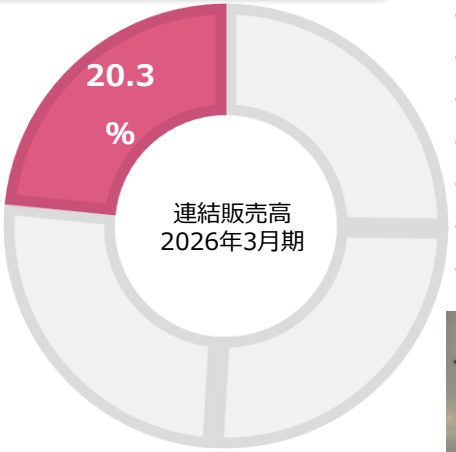
- 自動車部品製造用
- 製缶用
- 電池関連用　等

その他の超硬製品



- 超硬合金素材
- 半導体製造装置用部品　等

超硬以外



- 鋼製品
- KF2製品
- セラミックス製品
- ダイヤモンド研削砥石
- FHR製品
- 銅タン
- NFメタル
- 引抜鋼管　等

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

モノづくりを土台から支える「生命工具」

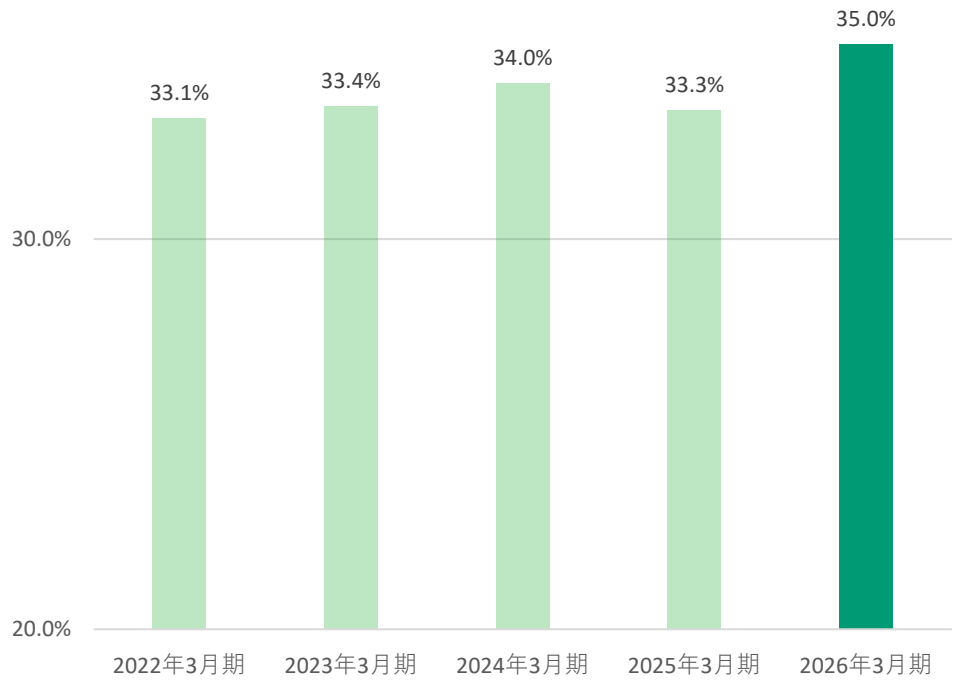
上記以外にも、冨士ダイスの製品は、鉄道架線・電線などのインフラ設備、人工ダイヤモンドの製造や新素材の開発など、様々なシーンでものづくりを支えている

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

耐摩耗工具専業国内トップメーカー

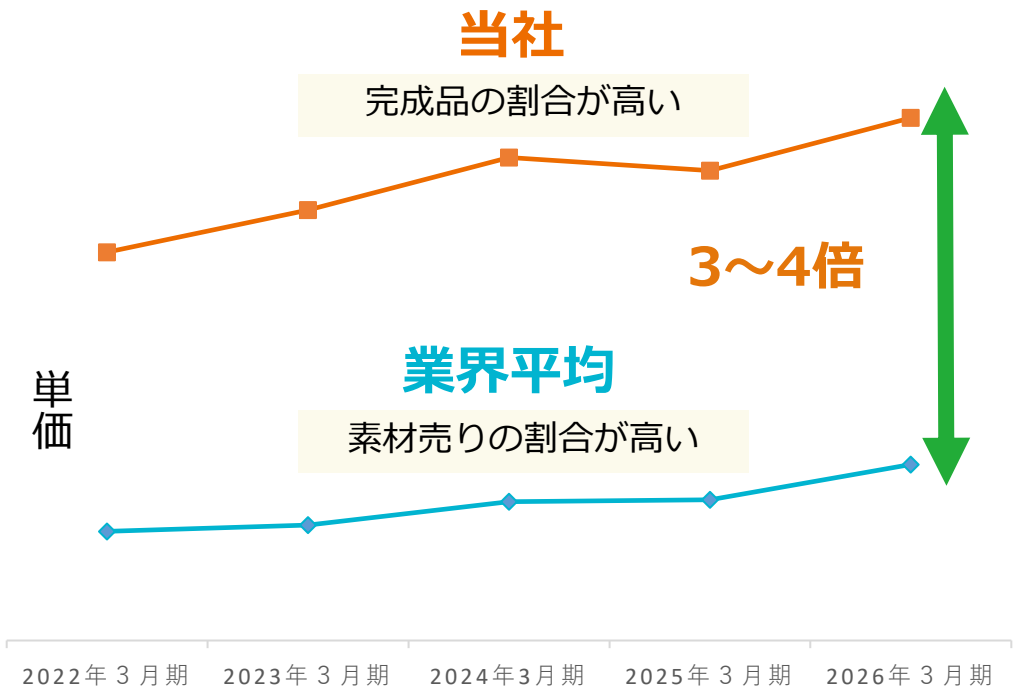
国内超硬耐摩耗工具業界で当社は長期に亘り、トップシェア（30%超）を堅持
少量多品種の高付加価値製品の販売が主で、販売価格は安定して推移

超硬耐摩耗工具・国内出荷額シェアの推移



※2021年3月期は新型コロナウイルスの影響が大きいため除外

製品の平均単価の推移

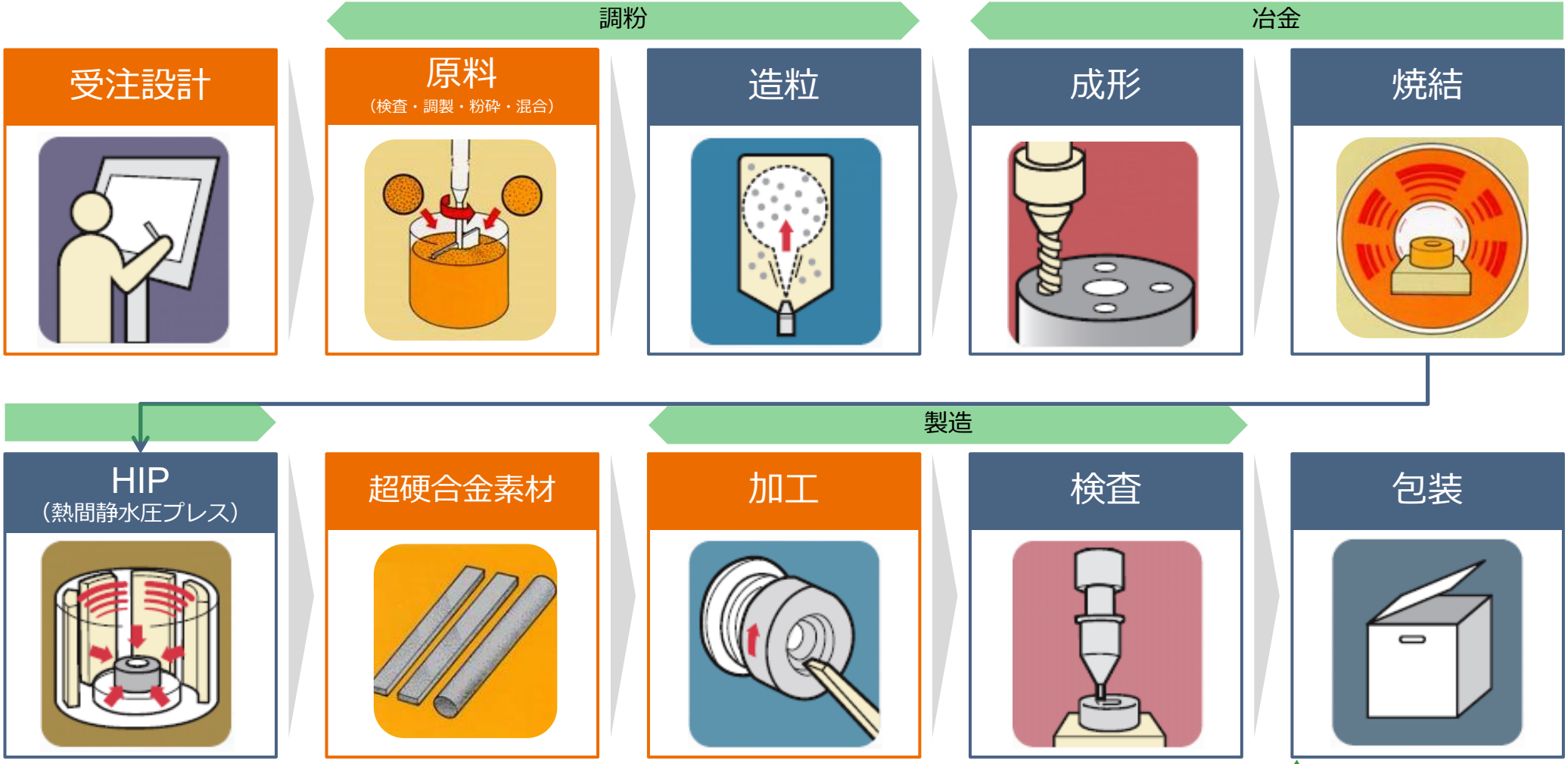


出所：日本機械工具工業会

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

一貫生産体制により様々なオーダーに対応

- 設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査まで**一貫した受注生産体制**
- ２つのコア技術、高度な**粉末冶金技術**と**超精密加工技術**により
  様々なオーダーに対し**柔軟に対応**が可能（多品種・少量生産）

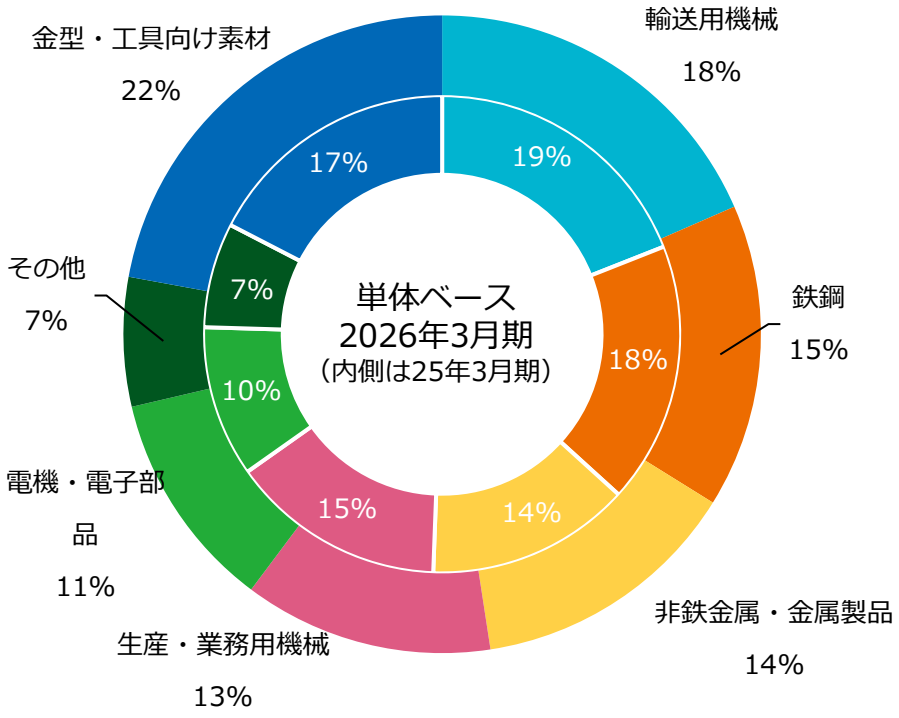


© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

受注生産・直販体制、グループ全体の取引先は約3千社に上る

少量多品種の顧客毎のカスタムメイドの受注生産・直接販売を行う
顧客との強固なネットワークにより、取引社数は約3千社、業種も幅広い
特定の業界動向に影響されない安定性が強み

【顧客産業分類区分売上構成(%)】



【営業・生産拠点（2026年3月末時点）】

【国内】
- 生産・営業拠点　5ヶ所
- 生産拠点　2ヶ所
- 営業拠点　5ヶ所

【海外】
- 生産・営業拠点　2ヶ国
  タイ・インドネシア
- 営業拠点　3ヶ国
  中国・マレーシア・インド

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

高い評価を受ける素材開発力・加工技術力

2023年 第66回十大新製品賞において「モノづくり賞」を受賞

- **高精度ガラス成形用金型素材【フジロイTR05】」が、**日刊工業新聞社主催の**「2023年 第66回十大新製品賞」において「モノづくり賞」を受賞。**

「2024年度 (第８回) 精密工学会ものづくり賞」において「最優秀賞」を受賞

- **【フジロイ TR05】の開発および超精密加工技術の確立が評価され、**公益社団法人精密工学会主催の**「2024年度 (第８回) 精密工学会ものづくり賞」において「最優秀賞」を受賞。**

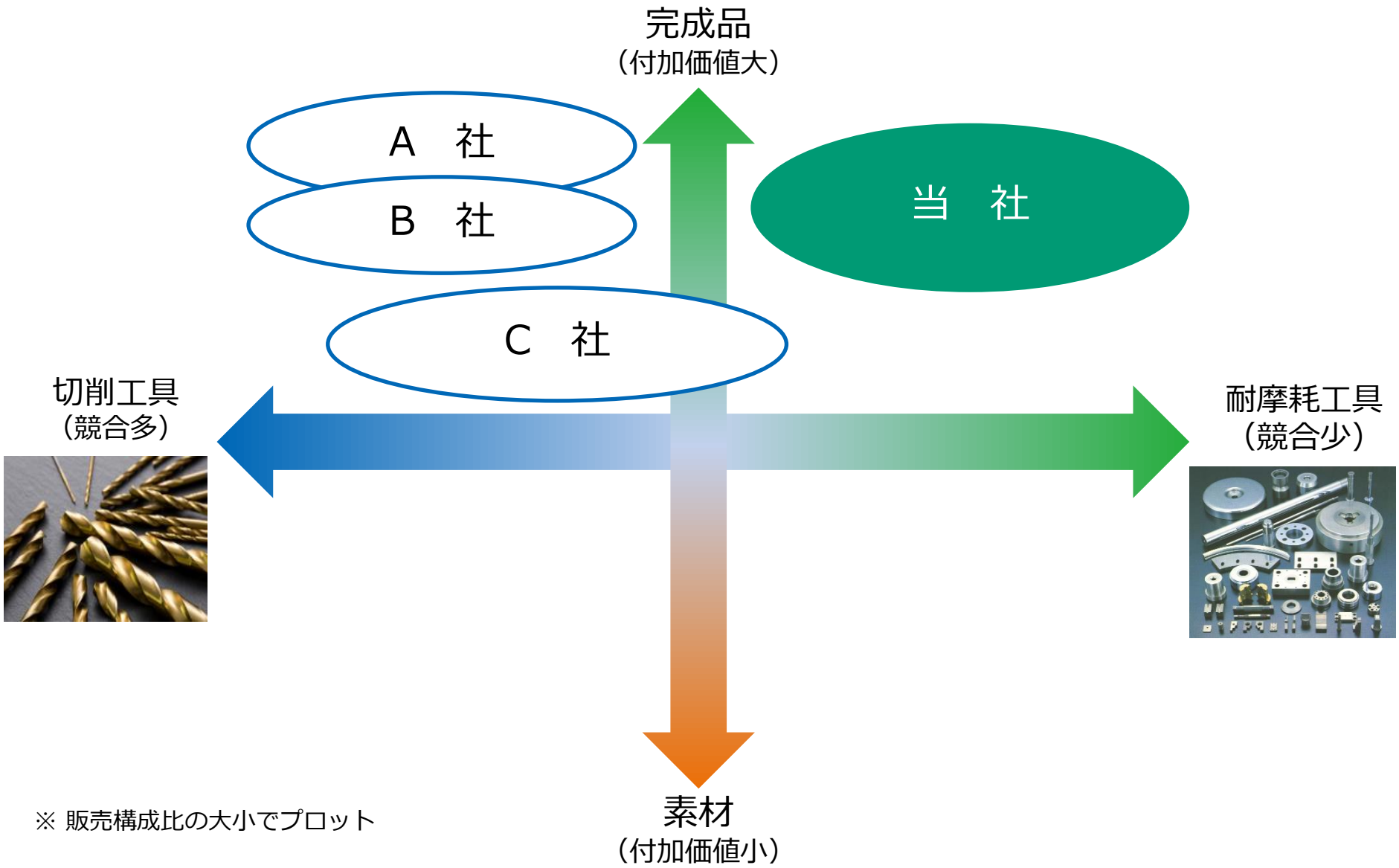
高精度ガラス成形用金型素材【フジロイTR05】の開発は

- **日本機械工具工業会主催の「2023年度日本機械工具工業会賞」における最高栄誉の 「技術功績大賞」**
- **一般社団法人 粉体粉末冶金協会主催の「 2024年度協会賞」における新技術・新製品賞（優秀賞）**

なども受賞しており、合計で4つの賞を受賞

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

工具業界 ポジショニングマップ（上場企業）



※ 販売構成比の大小でプロット

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

02

タングステン問題を成長機会へ転換

FUJILLOY © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

当社を取り巻く経営環境への対応

超硬合金の主原料となるタングステンの世界的供給不足や価格の変動、中東情勢の緊迫化など不確実性が高まる経営環境に対応すべく、材料利用の効率化やリサイクル、代替材料の研究、調達先の複線化および価格改定を着実かつ迅速に推進

外部環境の不確実性
タングステンの世界的供給不足
タングステン価格の変動
中東情勢の緊迫化

経営環境への影響 →

対応方針
不確実性が高まる経営環境に対応

← 変化に対応

具体的な取り組み	
材料利用の効率化	リサイクル
代替原材料の研究	調達先の複線化
価格改定	

経営環境

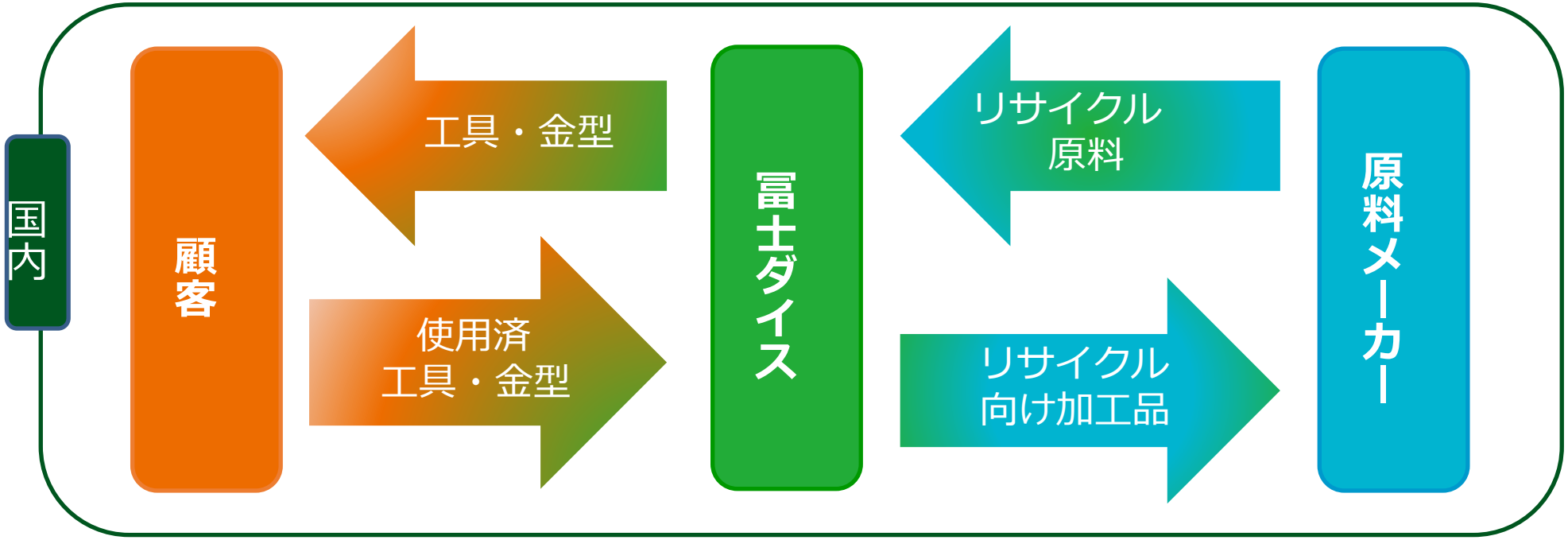
- 2025年11月以降、中国政府による日本向けのタンスグテンの輸出許可が出ておらず、国内の原料メーカーからの供給量も2025年の7割～8割程度にとどまっている
- タングステン価格の指標となる中間原料のパラタングステン酸アンモニウム（APT）価格は、中国政府による輸出管理強化前の10キロ当たり300ドルから、今年4月には3,000ドルへと10倍に高騰、需給ひっ迫を背景に高値が継続する見通し

⇒ タングステンの需給や価格が影響を受けやすい状況が依然として続いている

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

タングステン問題を成長機会へ転換　①超硬耐摩耗工具・金型のリサイクル

- スクラップ回収に必要な各種申請手続きを完了、モデル地域を定め、昨年10月より試験的な回収を開始、対象地域を全国に拡大し、積極的に回収活動を実施中
- 顧客網を活用し、超硬耐摩耗工具・金型の国内循環型リサイクルの実現を目指す
- 限りあるレアメタルを有効活用し、原料調達リスクを低減



2027年３月期 取り組み

- 使用原料の10%程度をリサイクル原料で賄うことを目指す

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

タングステン問題を成長機会へ転換②　省レアメタル合金の開発

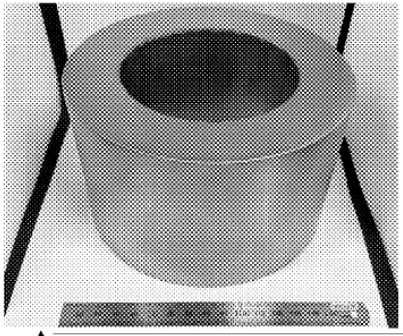
省タングステン ・コバルト合金【サステロイ STN30】

●鋼程度の比重、超硬合金と同等・鋼の４倍の耐摩耗性を実現し、地政学的リスクが懸念されるレアメタルの使用量を大幅削減した新合金【サステロイ STN30】を2025年10月より本格販売

市場投入フェーズ

耐摩耗性、鋼の４倍

冨士ダイス、新合金開発



▲開発した新合金「サステロイ STN30」

冨士ダイスは汎用超硬合金と同等で鋼の4倍の耐摩耗性を持つ新合金を開発した。ニオブ炭化物を主成分とし、金属部分の摩耗を極力抑制する材料設計と、通常焼結技術を用いた結合剤の最適制御により、混錬工具対応と粉砕工具対応の両条件下で優れた耐摩耗性を実現した。回転工具や混錬工具など向けに売り込み、2025年度に1000万円の売り上げを目指す。

開発した新合金「サステロイ STN30」は汎用的な超硬合金に比べ作受け付けを始めた。10月から発売し、試べて耐食性を高めた。

10%濃度の塩酸の場合、多少の腐食は見られたが、同濃度の水酸化ナトリウムと3%濃度の塩化ナトリウムの場合はほぼ腐食がないことを自社試験で示した。

また、超硬合金の約5分の3と鋼程度の比重のため、回転工具に使うと、装置への負荷軽減による電力削減などが見込める。研削加工性は汎用の超硬合金と同等で、放電加工もできる。

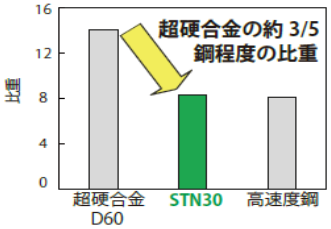
冨士ダイスは地政学リスクに影響されない安定供給を目指し、産出地が偏在するレアメタル（希少金属）の使用を抑えた合金開発を進めている。23年に超硬合金の主原料であるタングステンとコバルトの含有量を約9割削減した合金「サステロイ ST60」を開発し、発売。レアメタルを約9割削減という特長を生かしながら、今回、材料設計の見直しなどにより、局部的な摩耗にも耐えられるようにした。

29日にポートメッセなごや（名古屋市港区）で開幕する「名古屋 オートモーティブワールド」に出展し、新合金サステロイ STN30を初展示する。

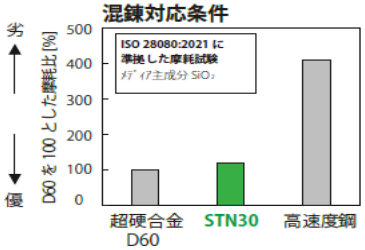
【2025年10月27日付「日刊工業新聞」】

新合金【サステロイ STN30】の特長

①軽量

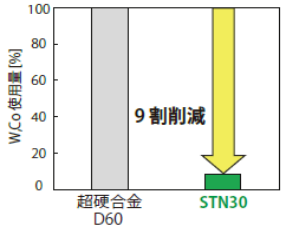


②高耐摩耗性



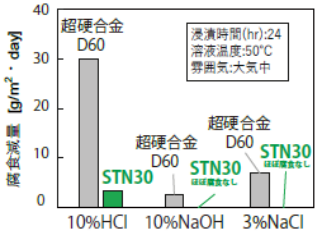
③省資源

タングステン・コバルト使用量を9割削減



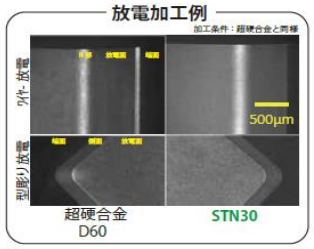
④高耐食性

一般超硬合金より腐食しにくい



⑤優れた加工性

研削加工性は超硬合金と同等、放電加工が可能



⑥磁性を有するため磁力選別が可能

2027年３月期 取り組み

超硬耐摩耗材の代替としての需要増を見込み、ラインナップの拡大を図る

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

タングステン問題を成長機会へ転換③　ダイジェット工業との業務提携

ダイジェット工業株式会社と重要鉱物であるタングステンとコバルトの使用量を削減した合金に関する業務提携契約を締結（6/26開示）

ダイジェット工業と、各々が開発した重要鉱物であるタングステンとコバルトの使用量を削減した合金に関して、両社の販売ネットワークを活用した販路拡大に向けた業務提携契約を締結

DIJET

【サーメタル】
タングステンとコバルトを使用しない合金

使用用途：
絞り型・粉末成形金型
耐熱用治具

×

FUJILLOY

【サステロイ STN30】
タングステンとコバルトの使用量を90%削減した合金

使用用途：
回転工具・混錬工具

- **第1弾として、当社がダイジェット工業製サーメタルの提供を受け、工具・金型向け販売を展開、両社の販売ネットワークを活用した販路拡大を推進**
- **第2弾として、当社製サステロイについても、両社販売網を活用した販路拡大に向けた検討を進める予定**

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

中期経営計画2026（2025年3月期-2027年3月期）：重要施策

変化に対応できる企業体質への転換

①経営基盤の強化

サステナビリティ経営とDX化を軸に組織力を高め、経営判断を迅速化

②生産性向上・業務効率化

各部門における自動化・省力化、DX化等による業務効率化を推進

③海外事業の飛躍

海外子会社と日本からの直接輸出の両輪で海外売上拡大を図る
アジア地域でのシェア拡大に加え、北米/インドにおける市場開拓を促進

④脱炭素・循環型社会への貢献

脱炭素・循環型社会の形成に貢献する製品を積極的に開発・市場投入

⑤新規事業の確立

100年企業を目指し、新規事業の専門組織を立ち上げ、新事業シーズの事業化を加速

既存事業領域	新規事業領域

利益率向上

売上拡大

国内事業は成長の基盤（安定的に成長）、成長を牽引するのは海外事業
将来の成長基盤の育成として新事業の実現という方向性

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

03

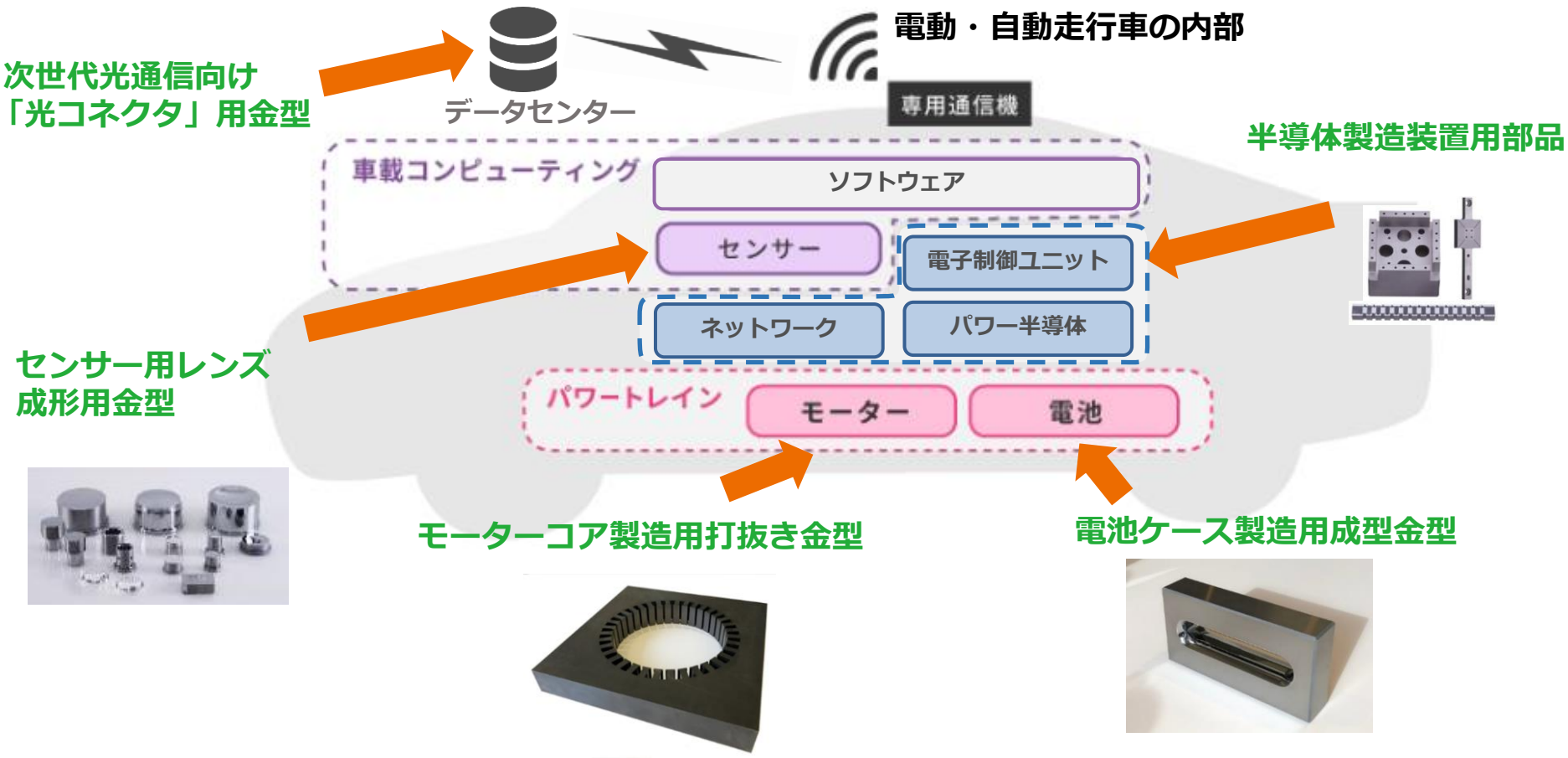
成長市場への展開と株主還元策

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

成長分野と冨士ダイスの関係

次世代自動車・半導体・光通信

自動運転向けセンサー用光学部品、次世代光通信分野、半導体製造装置分野に、当社の工具・金型・素材が貢献



電動・自動走行車の内部　図の引用元：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のホームページ

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

成長市場への展開　①次世代光通信

次世代光通信向け「光ファイバアレイ」用金型

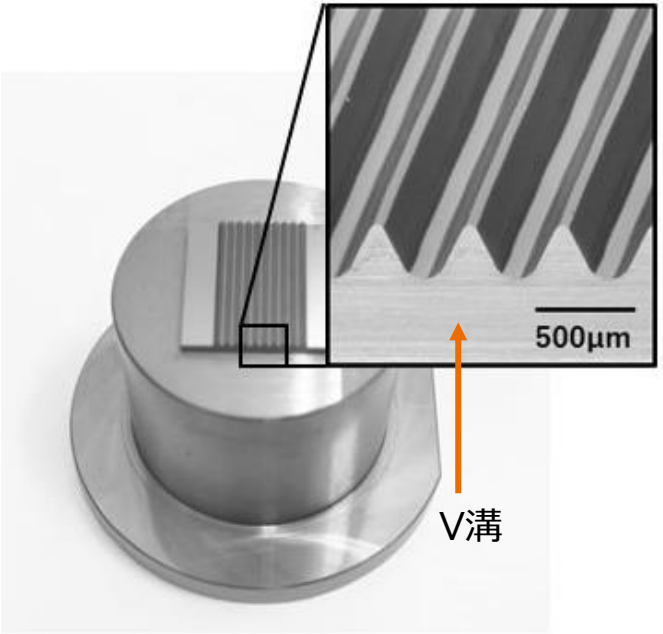
超精密加工技術を活かし、データセンターなどの次世代光通信で使用される「光ファイバアレイ」用金型へ展開

市場投入フェーズ

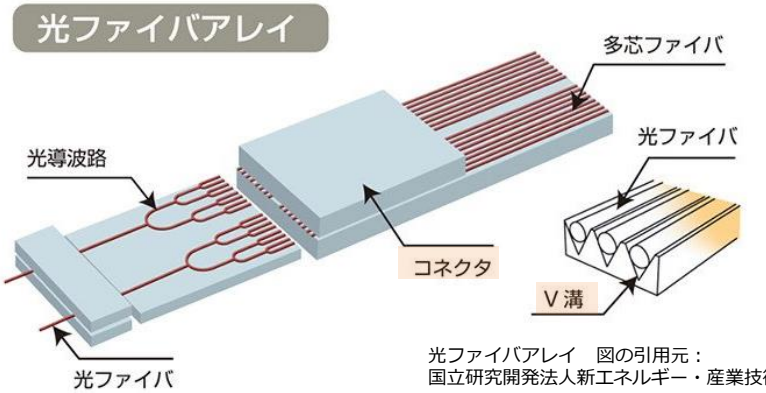
開発開始 → 販売中

- **大容量高速通信に欠かせない極細の光ファイバをつなげる「光コネクタ」用金型を最先端の超精密加工技術により寸法精度0.1μm以下※1で製作**

※1 寸法精度0.1μm（0.0001mm）とは？
髪の毛の1000分の1のズレも許されないレベルの加工精度



「光コネクタ」用金型



光ファイバアレイ　図の引用元：
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のホームページ

- ◆ 光ファイバと光ファイバの“つなぎ目”にあたる「光コネクタ」の表面には「V溝」とよばれる細い溝が数十本刻まれている。その溝のなかにケーブル内から枝分かれした光ファイバが1本ずつはまるようになっている
- ◆ コネクタで接続された光ファイバの軸がわずかにずれるだけで、データ伝送量に損失が生じるため、0.1μmの誤差も許されない高精度が求められる

2027年３月期 取り組み

光ファイバアレイ用金型の超精密加工開発と量産開始

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

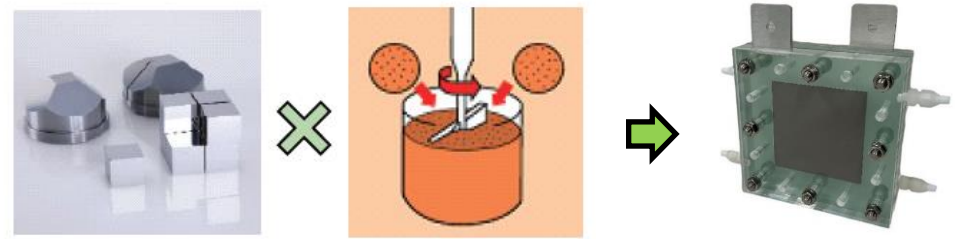
成長市場への展開　②次世代エネルギー

電気化学反応用
金属空気二次電池用触媒・電極(PME※)

※Powder Metallurgy Electrode（粉末冶金電極）

2025年“超”モノづくり部品大賞「生活・社会課題ソリューション関連部品賞」を受賞（モノづくり日本会議/日刊工業新聞社主催）

市場投入フェーズ



超高圧合成技術（触媒開発）　×　粉末冶金技術（電極化）　→　高性能触媒電極(PME)

- 水の電気分解により水素を生成する装置などに用いられる電極
- 水の電気分解による水素製造の際、必要な消費電力を従来比20%削減
- 触媒はカルシウム、銅及び鉄の酸化物（貴金属フリー）

2027年３月期 取り組み

2028年３月期の製品化を目指し、量産化を検討中

耐摩耗工具専業から新たな事業領域へ

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

成長市場への展開　③インドでの拡販

- 成長市場であるインドを重点エリアと定め、2026年4月より、休眠中だったインド現地子会社の営業活動を再開
- 現地のエージェントと契約し、デリーとベンガルールを中心に知名度向上と売り上げ拡大を図る

【現地エージェント】

インド最大級の展示会「IMTEX FORMING 2027 – International Forming Technology Exhibition -」出展を計画中

会期：2027年1月21日～1月27日
会場：Bangalore International Exhibition Centre

【2026年1月出展時の当社ブースの様子】

■ **10月1日より、社長直轄部門「インド事業開発部」を新設**

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

2027年3月期１Q 連結業績サマリー

- 売上高は、海外市場において原材料高騰に伴う価格転嫁が進んだ結果、前期比で増加
- 営業利益は、原価計算に総平均法を採用していることから原材料費高騰の１Qの製造原価への影響が抑えられていること、外注加工費、電力燃料費、修繕費等の費用減少、海外子会社の業績への寄与等により、前期比で増加

（単位：百万円）	2026年3月期 1Q実績	2027年3月期 1Q実績	前期比増減率	2027年3月期 業績予想	業績予想 進捗率
売上高	4,125	**5,051**	22.4%	24,400	20.7%
営業利益	175	**618**	252.4%	840	73.7%
（営業利益率）	(4.3%)	(12.3%)	(187.8%)		
経常利益	164	**632**	284.0%	920	68.8%
（経常利益率）	(4.0%)	(12.5%)	(213.6%)		
親会社株主に帰属する 四半期・当期純利益	122	**442**	260.2%	620	71.4%
(四半期・当期純利益率)	(3.0%)	(12.5%)	(320.6%)		
1株当たり 四半期・当期純利益	6.18円	**22.61円**	265.9%	31.67円	-
自己資本比率	79.6%	**78.4%**	1.2%		

（百万円未満 切り捨て）

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

2027年３月期　業績見通しサマリー

（単位：百万円）	2026年3月期 実績	2027年3月期 ２Q業績予想	2027年３月期 業績予想	期末における 前期比増減	期末における 前期比増減率
売上高	17,446	11,200	24,400	6,953	39.9%
営業利益	822	930	840	17	2.1%
（営業利益率）	(4.7%)	(8.3%)	(3.4%)	(-1.3%)	
経常利益	883	960	920	36	4.1%
（経常利益率）	(5.1%)	(8.6%)	(3.8%)	(-1.3%)	
親会社株主に帰属する 四半期/当期純利益	573	670	620	46	8.1%
1株当たり 当期純利益	29.03円	34.22円	31.67円	2.64円	-
一株当たり配当額	40.0円	-	40.0円	0円	-
DOE	3.8%	-	4.0%	0.2%	-

【2027年3月期　利益予想の前提条件】　（百万円未満 切り捨て）
①APT(パラタングステン酸アンモニウム）価格：3,058ドル/10kg　②為替：160円/米ドル

※業績見通しはタングステン価格の変動や価格転嫁の影響など、不確定要素が大きく、変動する可能性あり

ダイジェット工業株式会社との業務提携を含めた省タングステン製品の開発・拡販や、原材料の安定調達に向けたリサイクル事業の強化、調達先の複線化等の施策を引き続き推進し、原材料高騰による影響の抑制に努めるとともに、インド市場やデータセンターなどの成長エリア・分野に向けた拡販を図る

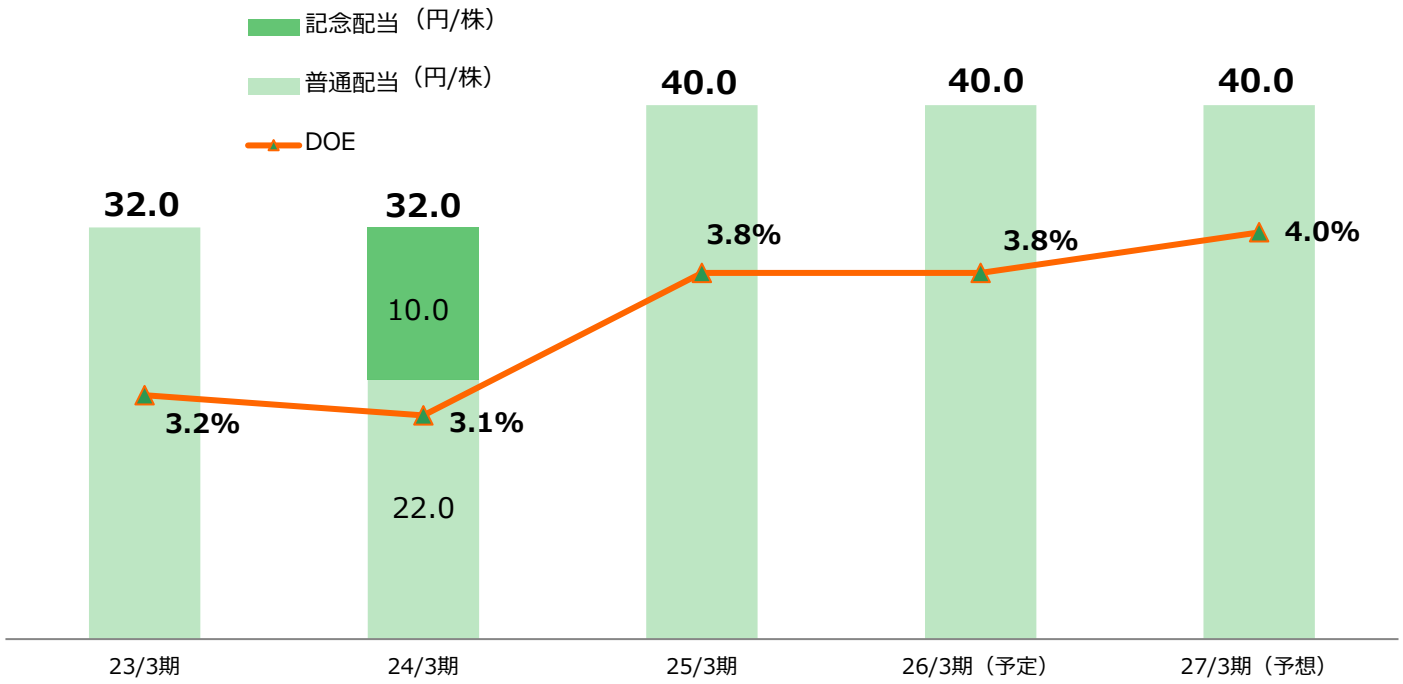
© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

2027年3月期 株主還元・配当

2027年３月期は1株当たり40円を計画

年間配当金
40円

- **2027年3月期までの中期経営計画期間中は、配当の基準を従来の配当性向から株主資本配当率（DOE）に変更するとともにDOEの目標値を４%目途に変更**
- **2027年３月期の配当は前期の配当と同額の一株当たり40円を計画**



※2026年3月期末配当は、当社第70回定時株主総会の承認を得た場合の1株当たりの配当金となります。

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

資本コストや株価を意識した経営の実現

1．現状分析と課題

►当社の株主資本コストは4.5～5.0%程度と認識
►ROEは売上高増や効率化施策による利益増によって前期比で改善したものの、原材料高騰等による損益構造の悪化等により依然として資本コストを下回っている状況
►積極的なIR活動や自己株式の取得を含む株主還元の強化等に努めた結果、株価水準が向上し、PBRは１倍以上を達成。
ただし、原材料高騰の影響等により収益性は中期経営計画目標に対し未達の状況。

➡ 収益性の改善が最重要課題

株主資本コスト 4.5%～5.0% ＞ ROE 約2.8%※1 ➡ PBR 約1.11倍※2

※1 2026年３月期

※2 2026年3月期末日の株価の終値（1,156円）で計算

指標	目標（2027年３月期）	2024年3月期	2025年３月期	2026年３月期
ROE	7.0%以上	3.5%	2.1%	2.8%
PBR	1倍以上	約0.66倍	約0.72倍	約1.11倍
DOE	4%目途	2.1% ※3	3.8%	3.8%
参考/株価推移（期末日終値）	―	687円	754円	1,156円

※3　普通配当の金額で計算。記念増配（一株当たり10円）を含めるとDOEは3.1%。

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

今後の取り組みについて

2．今後の取組みの方針

► 「中期経営計画2026」に沿って「変化に対応できる企業体質への転換」を果たし、収益性や成長力を向上させる。

PBR ＝ **ROE** × **PER**

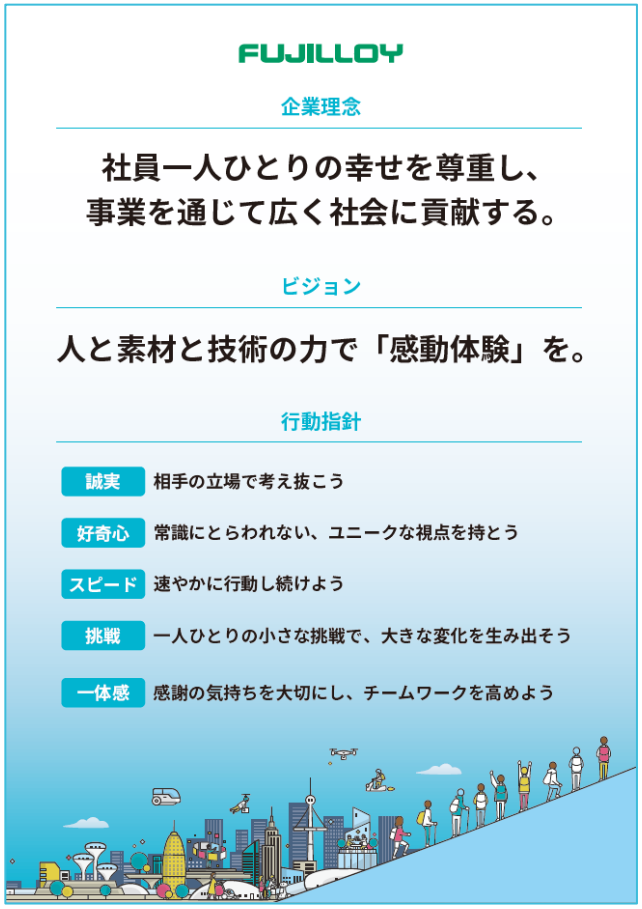
- ➤生産部門の自動化推進、新基幹システムの活用等による生産性向上、業務効率化
- ➤中国における高付加価値製品への注力、アセアンにおける新規業種への拡販、インド現地法人の事業活動再開
- ➤価格戦略の見直し
- ➤リサイクル事業の拡大や調達先の複線化等による原材料の安定的な調達
- ➤省タングステン・コバルト合金に関する業務提携の推進
- ➤配当の拡充維持、自己株式取得による株主資本（投資）効率向上

- ➤IR施策の強化（個人投資家説明会の回数増及び内容拡充等）による認知度、理解度の向上
- ➤当社のコア技術である粉末冶金技術と超精密加工技術を基に、成長分野に向けた製品を開発・市場投入
- ➤新領域への進出（M&Aを含む）による成長力の強化

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

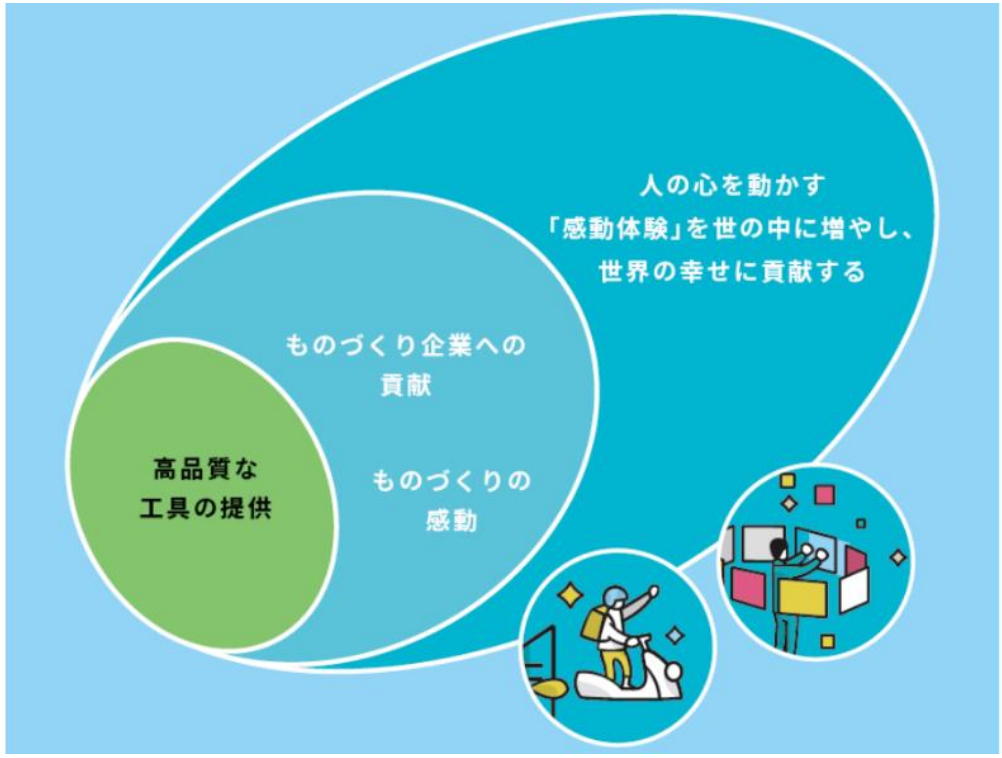
冨士ダイスが目指すビジョン

**2025年７月１日に、100 年企業を目指して、グループ企業理念を見直し
ビジョンを新たに策定**



超硬耐摩耗工具メーカー から

世の中に「感動体験」を増やす企業 へ



コーポレートサイト「企業理念」より

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

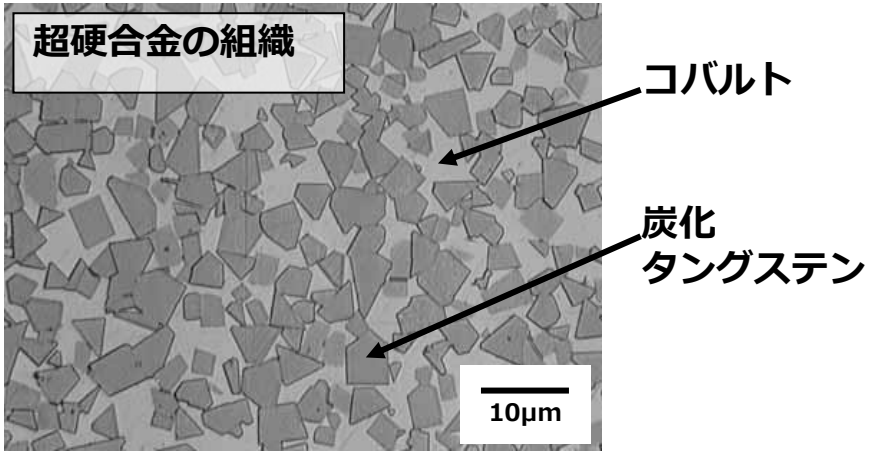
04

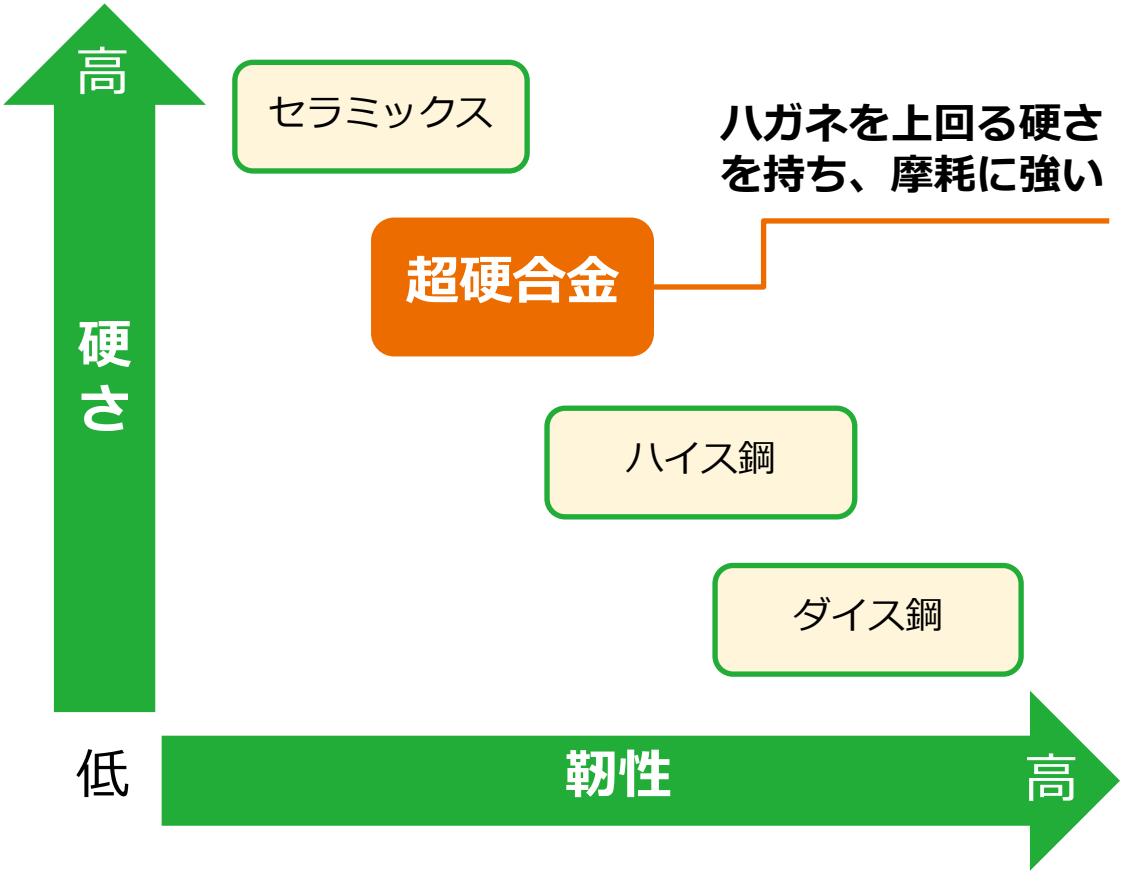
APPENDIX

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

超硬合金とは

- 炭化タングステンなどの**硬質炭化物**とコバルトなどの**金属**を組み合わせた**金属材料**
- ステンレスや鋼鉄を凌ぐ**硬さ**を誇り、**圧縮強さ**、**耐摩耗性**に優れる
- **変形しにくく**、高い精度が求められる**金型**や**工具の材料**として適している
- 金属の粉末を型に入れ圧縮して成型し、融点より低い温度で長時間焼いて固める
  「**粉末冶金法**」で製造される





© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

代表的な製品例

引抜・押出・圧延加工をする工具

輸送用機械、建築材料やインフラ関連の設備等へ使用

当社製品

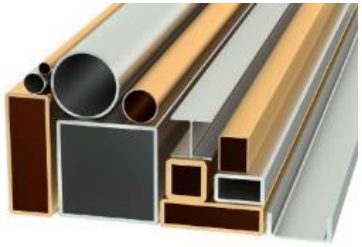
ダイス・プラグ

ロール

成形部材

パイプ

線材



異形管

最終製品例

エアコンなどの家電

飛行機などの輸送機器

鉄道架線・電線など
インフラ設備

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

代表的な製品例

飲料缶・一般食缶を製造する工具・金型

アルコール飲料や清涼飲料等の飲料缶を作る金型

光学素子を製造する金型

一眼レフ・通信用・監視カメラ・自動運転用カメラセンサーのレンズを生産する金型

当社製品

製缶工具

最終製品例

飲料缶・一般食缶

当社製品

ガラスレンズ成形用金型

最終製品例

監視カメラ

カメラレンズ

自動運転用カメラセンサー

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

代表的な製品例

鍛造用工具・金型

二輪車や四輪車、各種製造機械等の部品を作る金型

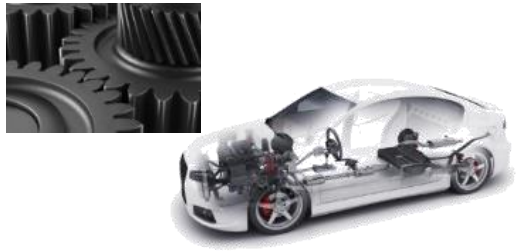
高圧工具

人工ダイヤモンドの製造、新たな素材の開発、地球の内部環境研究に用いる工具

当社製品

鍛造金型

最終製品例



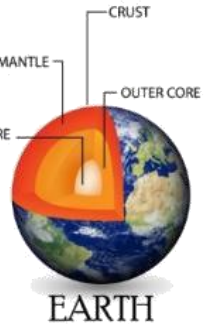
自動車・各種機械用部品

当社製品

高圧工具

最終製品例

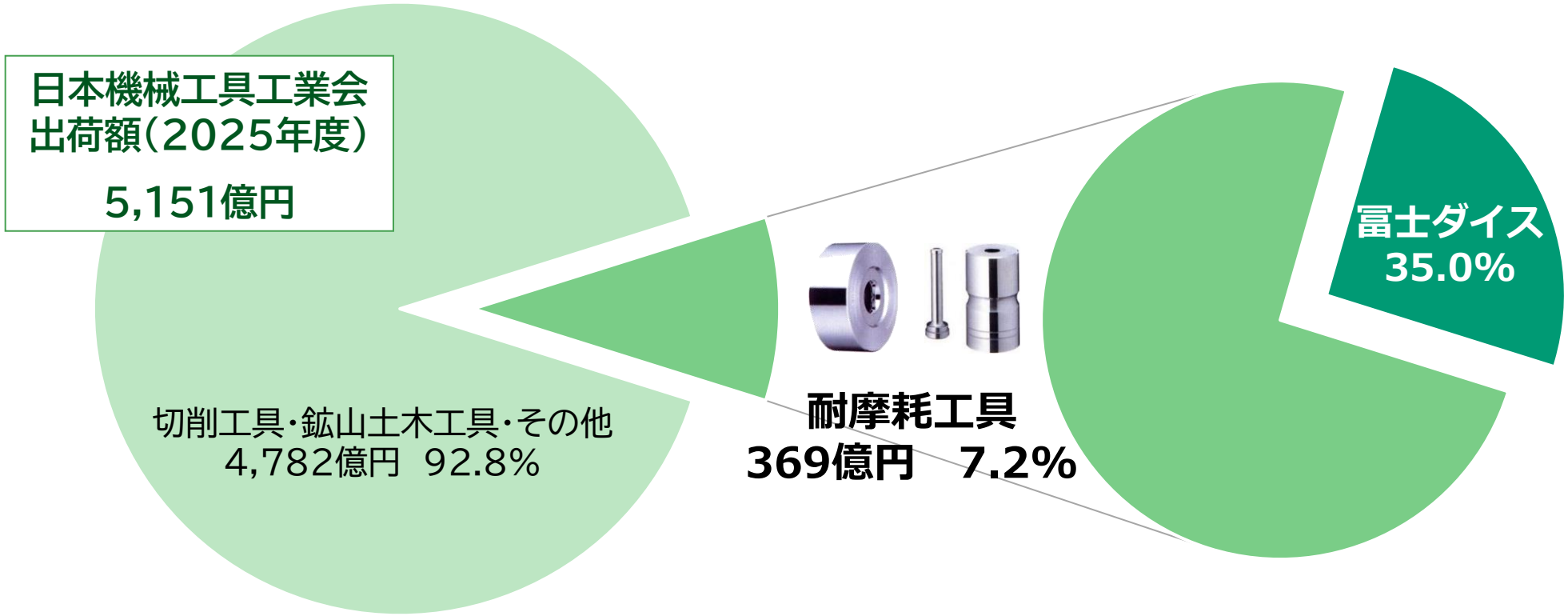
人工ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ・
新素材開発



地球物理学研究

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

超硬工具の国内市場規模（日本機械工具工業会調べ）



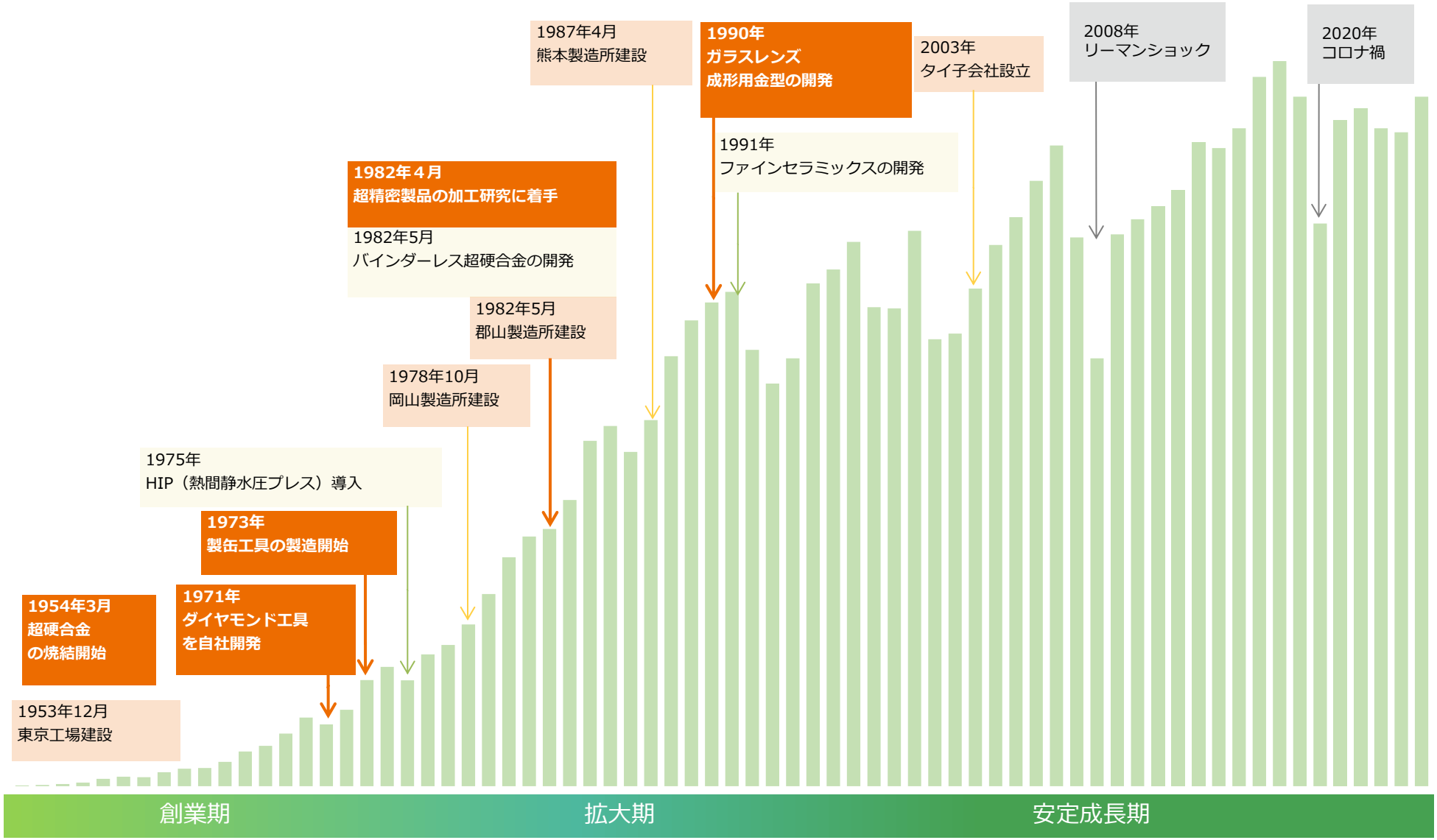
耐摩耗工具において、長年に亘ってトップシェアを堅持

当社の超硬工具の売上　　129億円（117億円/2024年度）

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

主な沿革と売上高推移

創業以来、黒字経営を継続



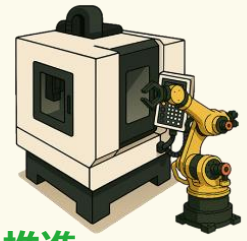
（注）2012年度以降は連結売上高

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

生産性向上・業務効率化　2027年3月期の取り組み

2026年３月期 進捗

【自動化】予定どおり全案件の自動化投資（１億6000万円）を完了



熊本製造所

- 冶金工程の成形加工機に産業用ロボットを追加導入、１月より本格稼働　省人化を推進
- 研磨加工作業に自動化ロボットを昨年8月よりテスト導入、昨年11月より本格稼働　省人化を推進
- 部品どりを自動で最適化するシステムを昨年7月より本格稼働　原材料の使用効率UP

岡山製造所

- 自動床洗浄ロボットを昨年5月より導入、２月より他拠点に横展開　間接時間を削減・省人化を推進

郡山製造所

- 冶金工程の粉末成形プレス機にロボットアームを追加、昨年12月導入、テスト稼働中　省人化を推進
  焼結用カーボンケースへの充填作業を自動化

秦野工場

- 研削加工に自動化ロボットを導入、２月より本格稼働　省人化を推進
- プラグ製作工程に自動ろう付装置を導入、1月より本格稼働　品質の安定化・生産性向上

2026年３月期導入案件
自動化稼働率 40%

↓

2027年３月期上期中
稼働率 100%に向上

2027年３月期 取り組み

冶金工程のさらなる自動化により、省力・省人化を推進

岡山製造所

- 郡山製造所の導入事例を横展開し、NC旋盤×ワークチェンジャーロボットを５月より導入

郡山製造所

- 100t自動プレスロボットを９月より導入、材料粉末の充填⇒圧粉成形⇒取出し整列を自動化

NC旋盤×ワークチェンジャーロボット
イメージ

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

海外事業の飛躍　2027年3月期の取り組み

中国

富士模具：販売拠点

2026年３月期 進捗

東莞支店の知名度向上と拡販を目指し華南エリアを中心に積極的に展示会に出展
光学機器関連は、車載およびスマホ向けが堅調、監視カメラ向け需要回復も重なり好調に推移

2027年３月期 取り組み

既存顧客に加え、高付加価値製品の販売に注力

アセアン

FUJILLOY THAILAND：生産/販売拠点
FUJILLOY INDONESIA：生産/販売拠点
FUJILLOYMALAYSIA：販売拠点

2026年３月期 進捗

タイ：メインの輸送機器が芳しくない中で、輸送機器以外の製品群の拡販を強化
インドネシア：欧米系・現地法人向けに電池関連を拡販
マレーシア：半導体関連が低調

2027年３月期 取り組み

タイ：他業種への拡販のために生産設備を増強
インドネシア：第２の都市スラバヤでの営業活動を強化
マレーシア：輸送機器関連を中心に開拓

北米

2026年３月期 進捗

売上拡大を目指し、新規マーケットの獲得のため、市場調査を継続

2027年３月期 取り組み

自前主義を脱却し、新しいビジネスモデルを検討中

インド

FUJILLOY INDIA PRIVATE LIMITED：販売拠点

2026年３月期 進捗

事業再開プロジェクトを発足、市場調査と現地拡販活動を強化
1月に展示会出展

2027年３月期 取り組み

４月１日より現地のエージェントと契約
デリーとベンガルールを中心に営業開始

2027年3月期目標
海外売上比率：25%以上

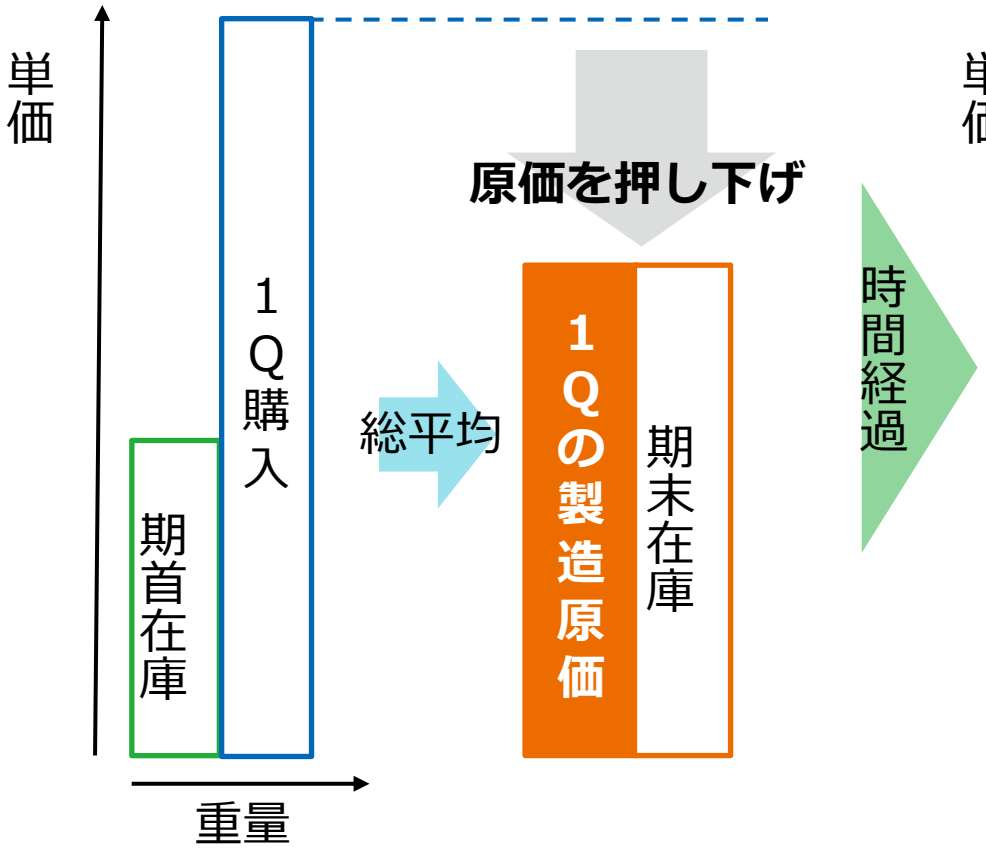
2026年３月期
海外売上比率：22.7%
(2025年３月期：19.5%より3.2ポイントUP)

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

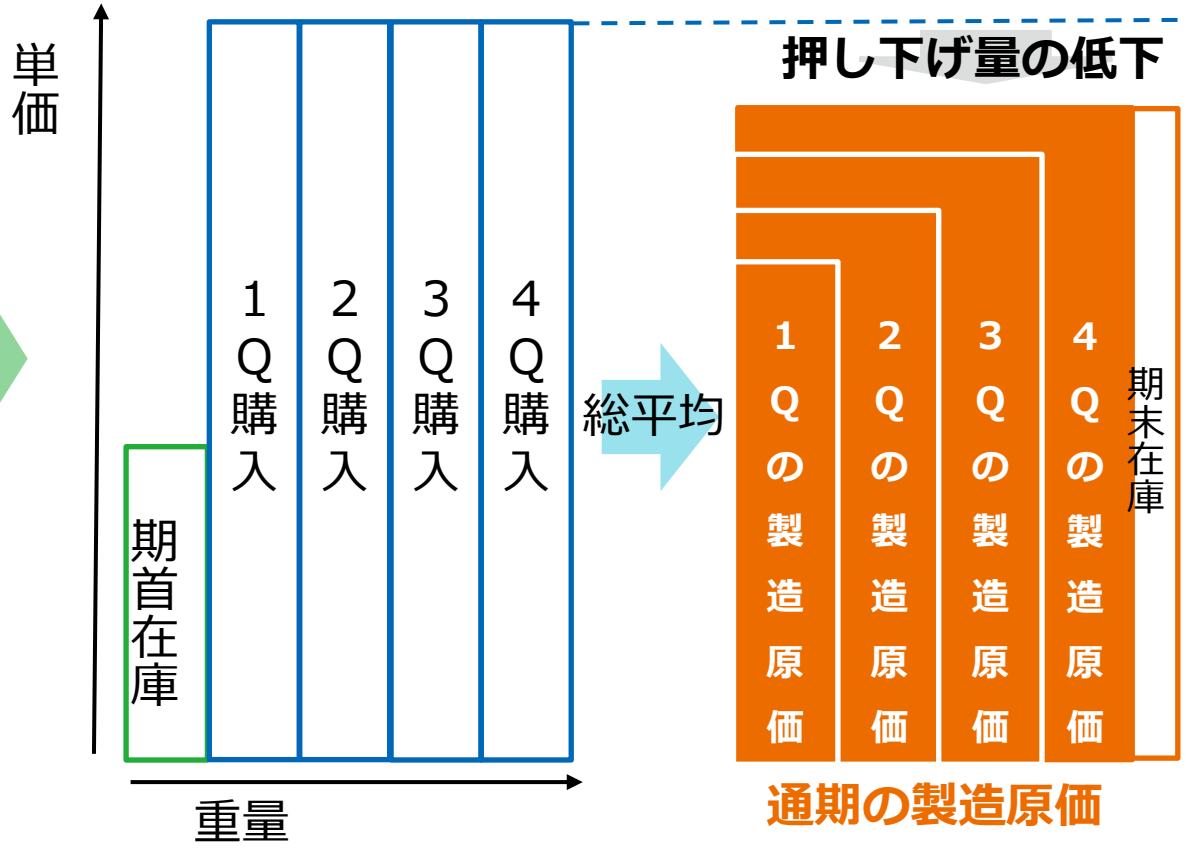
原材料高騰の影響が段階的に製造原価へ反映されるイメージ図

総平均法：保有する原材料の取得価格を平均化して原価を算出する方法
１Q時点では期首在庫の割合が多いため、総平均で製造原価を押し下げるが、
通期では期首在庫の割合が少なくなるため、製造原価の押し下げ量が低下する

【１Q時点の総平均法による製造原価】



【通期の総平均法による製造原価】

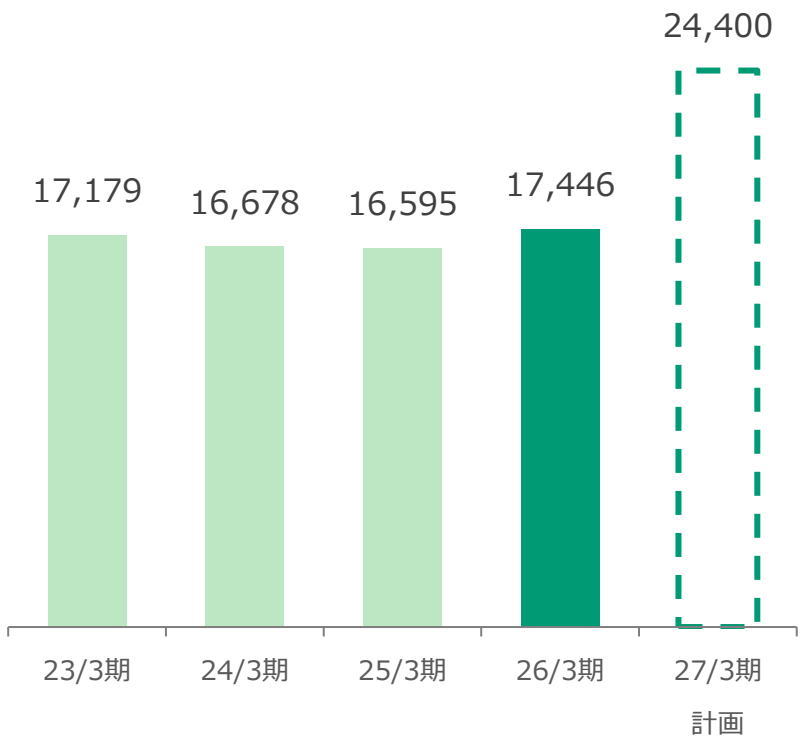


© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

業績の推移　1/3

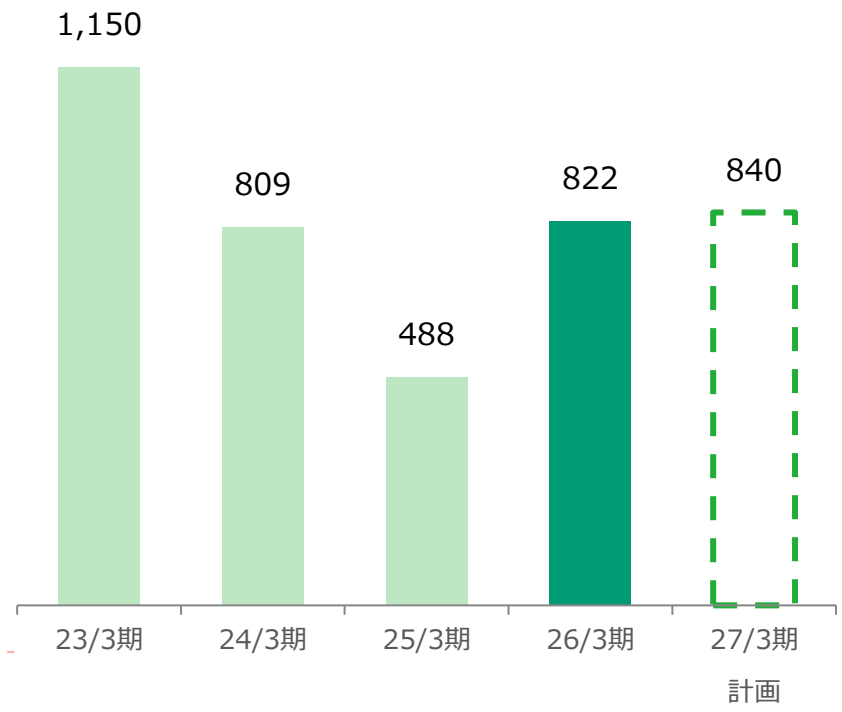
売上高

（百万円）



営業利益

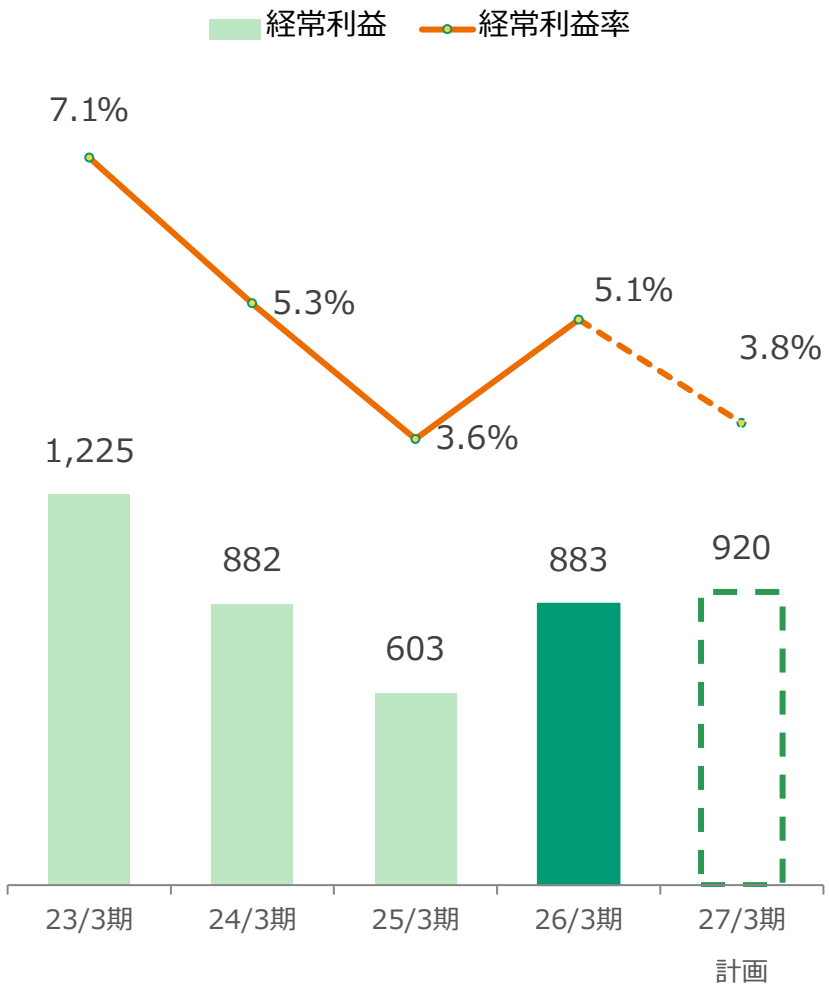
（百万円）



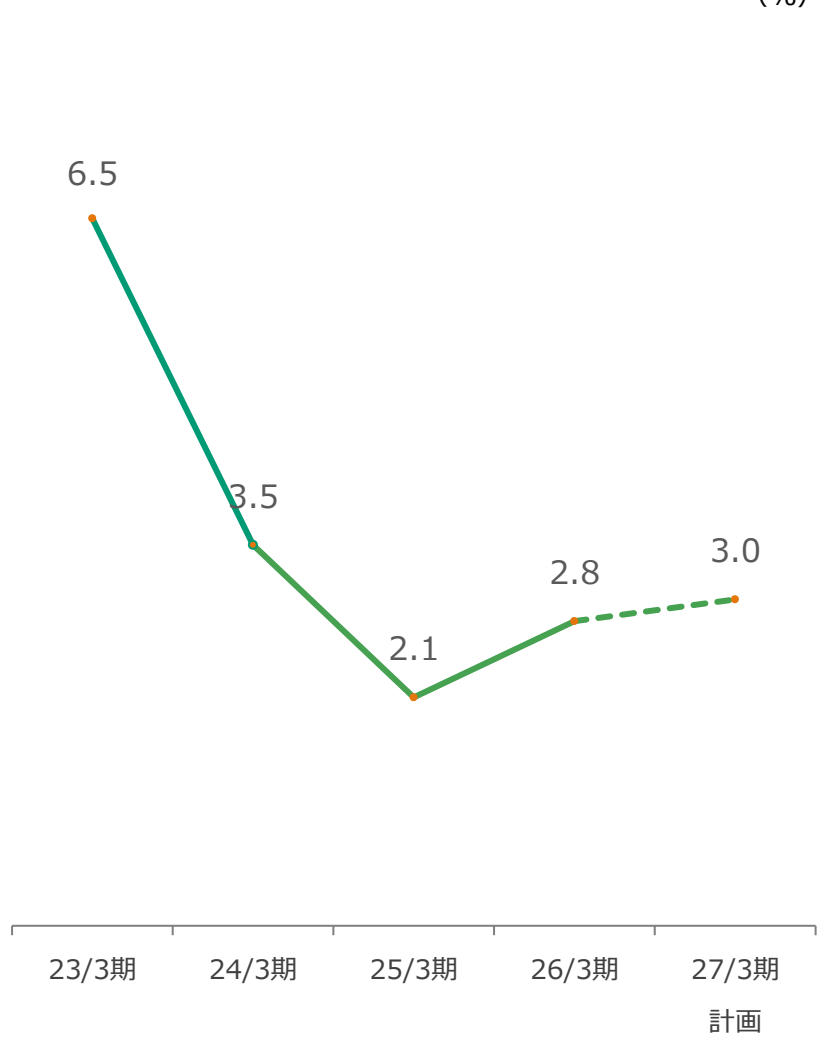
© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

業績の推移　2/3

経常利益



ROE

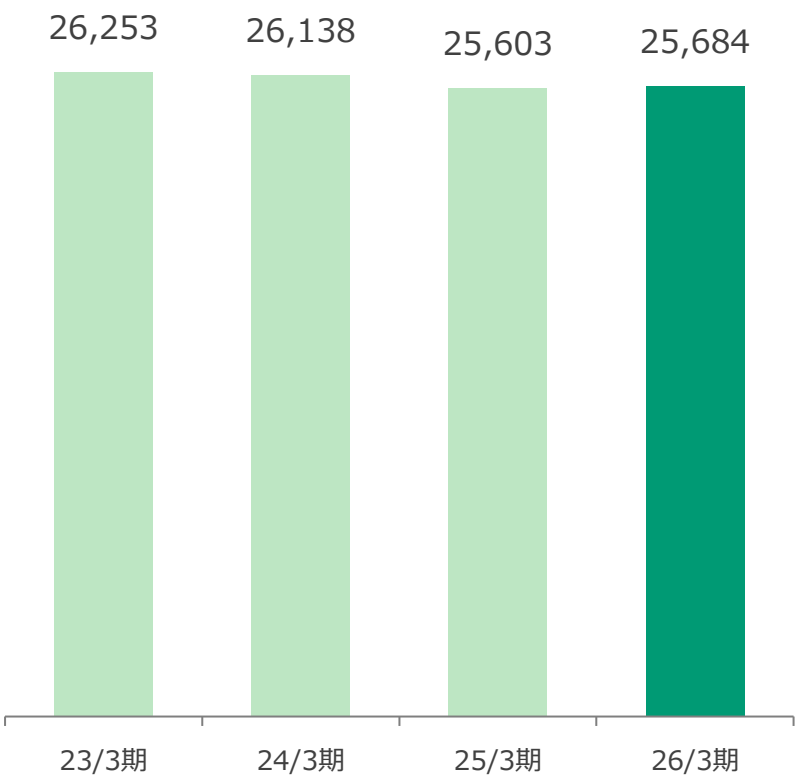


© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

業績の推移　3/3

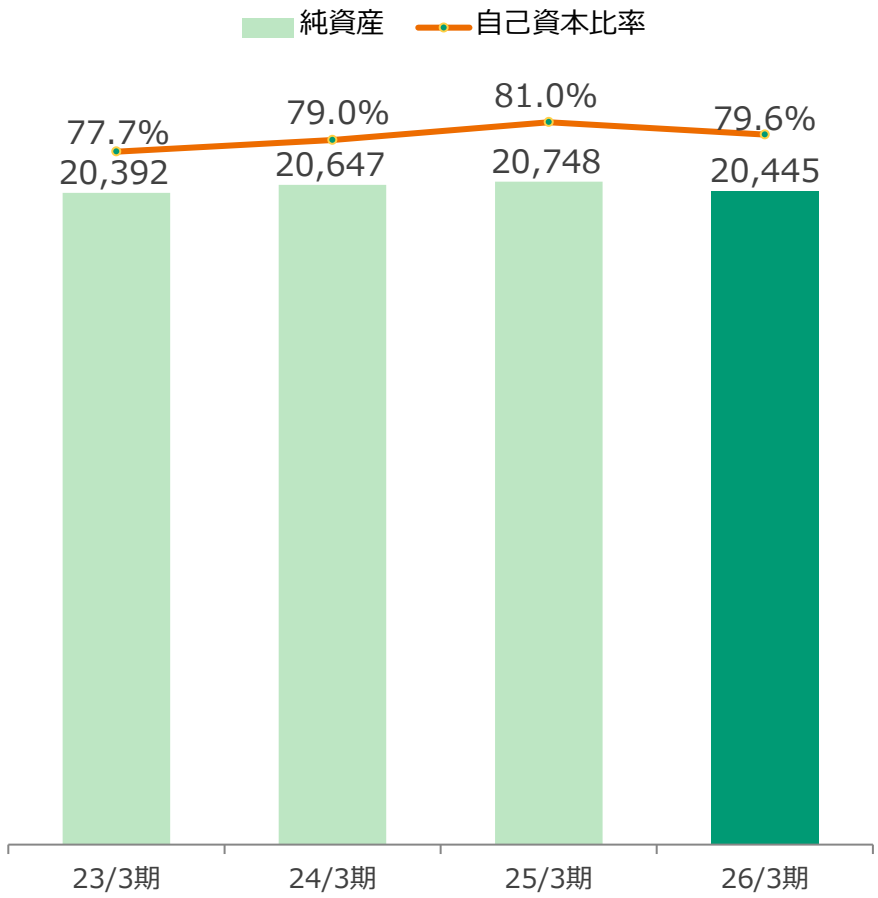
総資産

（百万円）



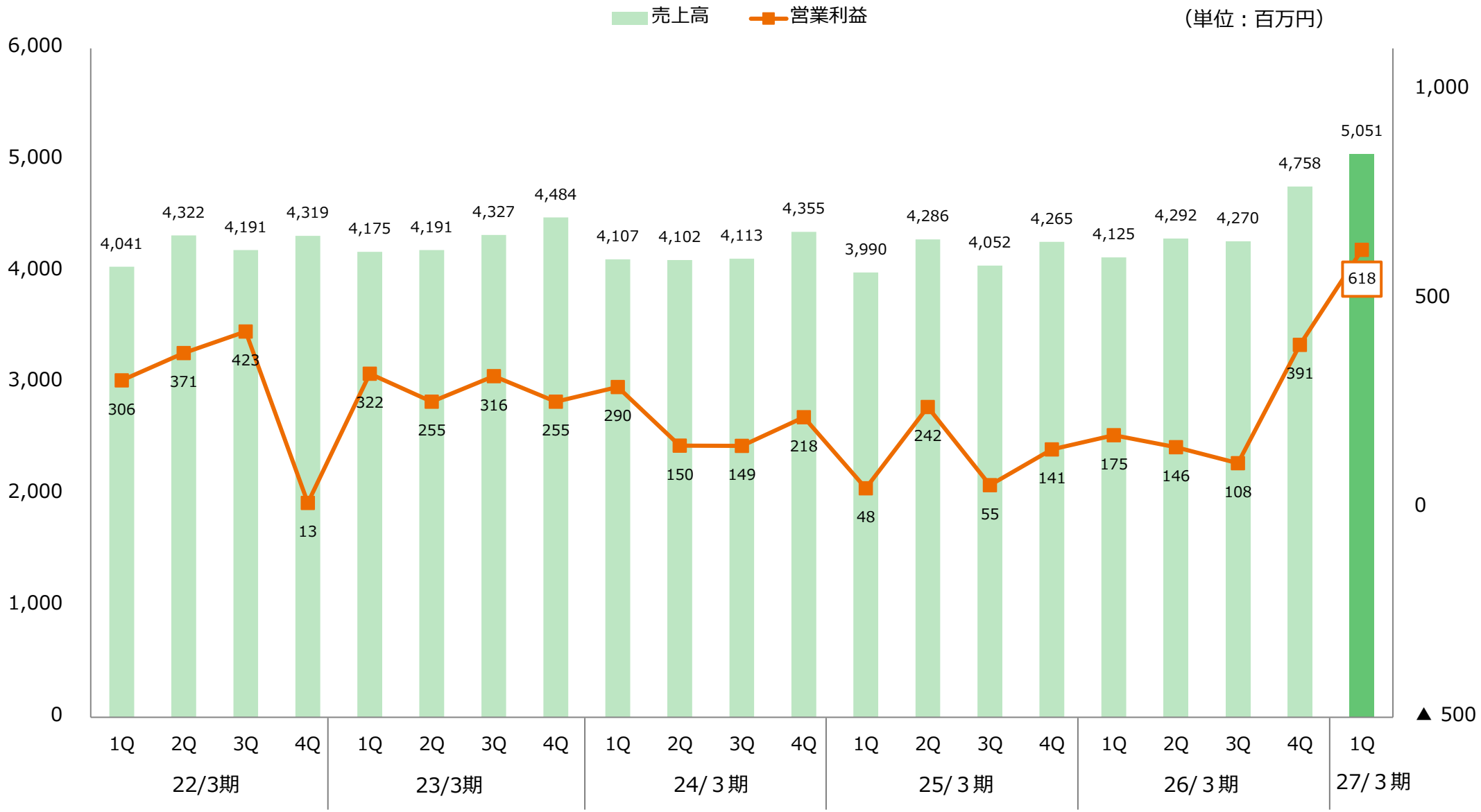
純資産

（百万円）



© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

連結四半期業績推移



© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

当社コーポレートサイト「投資家情報」ページ

当社コーポレートサイト「投資家情報」ページに業績ハイライトや開示資料を掲載

当社コーポレートサイト
https://www.fujidie.co.jp/

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

免責事項について

当資料は、冨士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

　また、当資料には見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記述されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性（市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等）が含まれております。 今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。 投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

　尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.